



YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「ロータリー：変化をもたらす」 Rotary: Making a Difference

2017-18年度 RI会長／イアン H.S.ライズリー RI.D2590ガバナー／湯川 孝則 横浜旭RC会長／滝澤 亮

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NUTS1階/〒241-0821
TEL.045-465-6702/FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル
(榎岡田屋3階会議室)

例会日 毎週水曜日/12時30分～1時30分



旭区民まつりにて熊本みかん販売



熊本自転車支援



ガールスカウトとクリーン作戦

2018年2月7日 第2323回例会 VOL. 49 No. 28

■司会 SAA 五十嵐 正

■開会点鐘 会長 滝澤 亮

■斉唱 君が代、奉仕の理想

■出席報告

会員数	32名	本日の出席数	26名
本日の出席率	92.86%	修正出席率	100%

■本日の欠席者

齋藤、二宮(麻)

■他クラブ出席者

齋藤(横浜瀬谷RC)、二宮(登)(横浜西RC)

■ゲスト

甘粕 亜矢様

(横浜市教育委員会事務局指導部国際教育課長)

沈 佳穎様(米山奨学生)

■2月誕生記念祝



佐藤 真吾会員

2.6

■ポールハリスフェロー表彰



岡田 清七会員 PHF+ 4

二宮 登会員 PHF+ 3

佐藤 真吾会員 PHF+ 1

■会長報告

皆様、こんにちは。新年はじめての、この会場での例会になります。お休みしている間は田川幹事、佐藤真吾副会長をはじめ会員のみなさまには大変ご迷惑をおかけしました。御礼申し上げます。

まだ寒い日が続いておりますのでお体には気をつけてお過ごし下さい。がんセミナーのポスターが完成しておりますので、参加人数の確保にご協力下さい。

■幹事報告

1) 例会臨時変更のお知らせ

○横浜南陵ロータリークラブ

日時 2月22日(木)→20日(火)

点鐘 午後6時30分
第7グループ合同例会

場所 ローズホテル
日時 3月15日(木)→16日(金)
一泊移動例会

場所 鈴廣かまぼこの里、エクシブ箱根離宮
日時 3月22日(木) 点鐘 午後6時30分
創立記念夜間例会

場所 ロイヤルホールヨコハマ
日時 3月29日(木)休会

2) 1/25、第3回会長幹事会が開催されました。今回は各クラブ事務局の方の参加があり、当クラブからは佐藤聖子さんが出席致しました。鶴岡ガバナー補佐の、クラブ運営には事務局の協力がかかせないものであり、会の運営がスムーズに実行されるとの意向です。又、2クラブは新人の方なので、顔合わせと言う事で、事務局の連携性がうまれるとの思いから計画されたとの事です。

その他、議案についても討議され、第5グループの将来は第7グループと統合され、6クラブが11クラブに編成されるとの事です。当面は現在のままで変更はしないが、第5グループに2人の補佐が出ると決議されました。(・現在の8グループが7グループとなる。)

・IM登録513名が685名となる。)

旭クラブとして第5グループの5クラブに向けて「がんセミナー」開催のPRを致しました。

■プログラム委員会 市川 慎二

4月25日(水)は体験例会となります。卓話者は中田幸子様です。体験例会開催につき中田様のプロフィールを載せて、チラシの作成を行いますので、ご友人等にお配りしていただきたいと思っております。

○予定

2/14 佐藤 利明会員

3/14 太田 幸治会員

3/28 宋 謹衣会員

4/18 倉本 宏昭会員

■大川 伸一会員より

新聞報道等大変お騒がせ致しております、申し訳ございません。先週末に私の病院

長更迭の報道がされました。しかし、月曜日にいろいろな動きがございまして、火曜日の報道でご存知の方の多いかとおもいます。お陰様で、引き続き、病院長として患者さんにご迷惑がかからぬように努めてまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

■沈 佳穎(米山奨学生)さんより

皆さん、こんにちは。寒すぎて病気の止まらない1月でした。先日沖縄に行ってきました。暖かくて帰ってきたくなかったです。3月になったら3週間ほど沖縄に住もうと考えています。

■ニコニコBOX(会員敬称略)

滝澤 亮/久しぶりの本例会場での例会であります。本年もよろしくお願い致します。

田川 富男/旭・瀬谷2クラブ合同例会への参加、ご苦労様でした。滝澤会長、無事生還おめでとうございました。

宋 謹衣/昨夜、台湾東部、花蓮でM6.0の地震がありました。実家のある高雄は無事でしたが、震源地である花蓮は大きな被害があったそうです。来週、旧正月には台湾に帰りますが、何か役に立つことをできたら良いと思っております。

須藤 亘/本日の卓話、甘粕様どうぞ宜しくお願いします。先日2/2が妻の誕生日でした。誕生日当日ロータリーよりお花を頂きました。妻も私もとても感動しました。暖かいお心遣いに感謝です。ありがとうございます。

大川 伸一/そろそろ花粉が飛んでいる様な気がします。花粉症の方はいかがでしょうか。甘粕様、ようこそいらっしゃいました。本日の卓話をよろしくお願い致します。

佐藤 真吾/誕生祝いをいただき有り難うございました。とうとう50歳になってしまいました。

新川 尚/甘粕様、本日は卓話宜しくお願いします。

安藤 公一/①甘粕様、お忙しい中おいただき有り難うございます。本日の卓話宜しくお願い致します。②平昌オリンピックでの日本選手の健闘を祈って。

吉原 則光/甘粕様、公務で多用のところ卓

話有り難うございます。有益なお話、よろこんで拝聴させていただきます。

北澤 正浩／甘粕様、卓話よろしくお願ひ致します。

本山 雄三／甘粕様、ようこそおこし下さいました。よろしくお願ひします。

市川 慎二／甘粕亜矢さま、本日の卓話宜しくお願ひ致します。

安藤 達雄／妻の誕生日にお花をいただきありがとうございます。（代筆～公一）

太田 勝典／正義は勝つ。大川先生、より活躍されることを期待します。

■卓話

横浜市における日本語指導が必要な児童生徒の現状及び支援について

横浜市教育委員会事務局国際教育課長
甘粕 亜矢様



皆様こんにちは、本日はこのような機会をいただきありがとうございます。12月に青木さんを始め3名の方がお見えになりました。今、横浜市は外国から来ているお子さんたちが非常に増えております。そういったお子さん達に関心をもっていただいて、サポートをしていきたいといったお話をいただきまして非常に嬉しく思っております。

今回はこの機会に皆様に横浜市の現状を知っていただき、そういったお子さんがおりましたら、是非サポートしていただきたいと思ひます。本日は、横浜市における日本語指導が必要な児童生徒の現状と支援についてお話をさせていただきます。

内容は大きく3つに分かれております。

1) 外国籍及び外国につながる児童生徒のデータ

外国籍及び外国につながる児童生徒データ

外国籍・外国につながる児童生徒数 (H29.5.1)

	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)
外国籍・外国につながる	7,488	8,034	8,423	9,129
外国籍	2,367	2,601	2,856	3,111
中国(台湾を含む)	913	1,115	1,323	1,519
フィリピン	320	354	388	391
韓国・朝鮮	274	256	254	249
ベトナム	236	232	229	236
ブラジル	154	155	160	161
ペルー	131	122	108	97
アメリカ合衆国	37	32	35	38
タイ	38	35	40	37
インドネシア	18	24	28	37
ネパール	11	13	22	37
外国につながる	5,121	5,433	5,567	6,018

※国籍及びつながる国の総数：102 개국

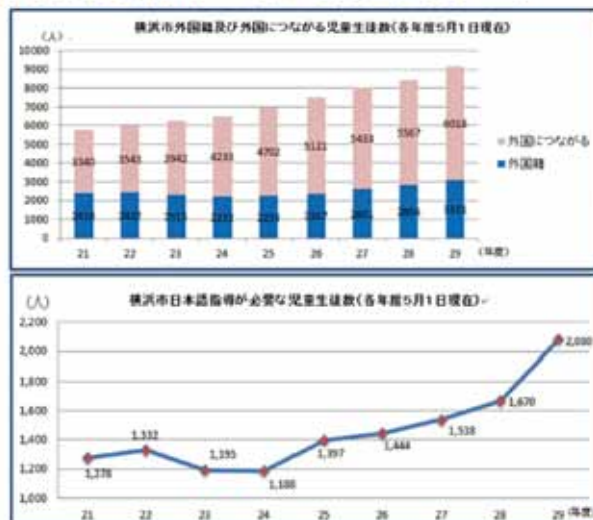
日本語指導が必要	1,444	1,538	1,670	2,080
----------	-------	-------	-------	-------

※日本国籍、帰国児童生徒を含む

- 2) 日本語指導が必要な児童生徒への支援
- 3) 関係機関との連携

この表にありますように、ここ数年非常に外国の方が増えております。人数としまして、平成26年から29年までの間に、外国籍そして外国につながるお子さん、これは両親の片方が外国の方であったり、日本の方ですが海外で育った子、というような方も入っております。その方が、7,488人から9,129人ということで、毎年500人近く増えているという現状がございます。その内、日本語指導が必要なお子さん、学校の勉強についていけない程度から、まったくしゃべれないというお子さんも含めまして、現在2,080人のお子さんが日本語の支援が必要ということで、4年間で1.44倍となり、このままで行くと今後かなり増えていくことが予想されます。下のデータは横浜市立の小中学校に通っているお子さ

外国籍及び外国につながる児童生徒データ



んのデータです。

下は旭区のデータです。旭区は多い方ではないのですが、やはり 350 人を超えている状況です。日本語指導が必要なお子さんも 30 人程度支援をさせていただいております。

外国籍及び外国につながる児童生徒データ

○旭区における推移

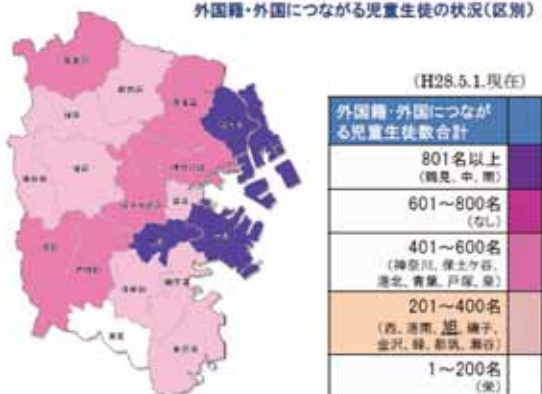
		27年度	28年度	29年度
外国籍等児童生徒	小学校	285人	269人	262人
	中学校	82人	83人	107人
	合計	367人	352人	369人
要日本語指導児童生徒	小学校	26人	27人	20人
	中学校	1人	4人	3人
	合計	27人	31人	23人

次に横浜市でどのようなになっているかを表したデータを紹介します。

人数については、外国籍につながるお子さんについては、やはり海沿い鶴見・中区・南区が非常に多くなっております。

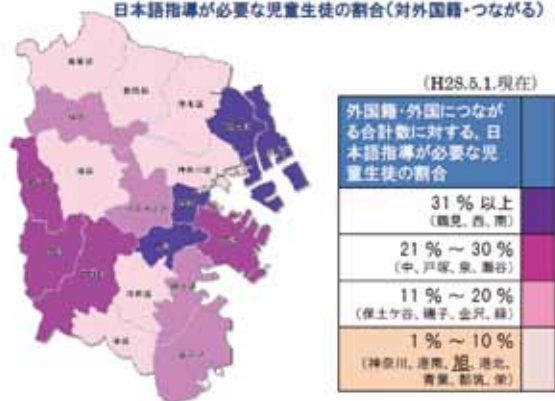
外国籍及び外国につながる児童生徒データ

外国籍・外国につながる児童生徒の状況(区別)



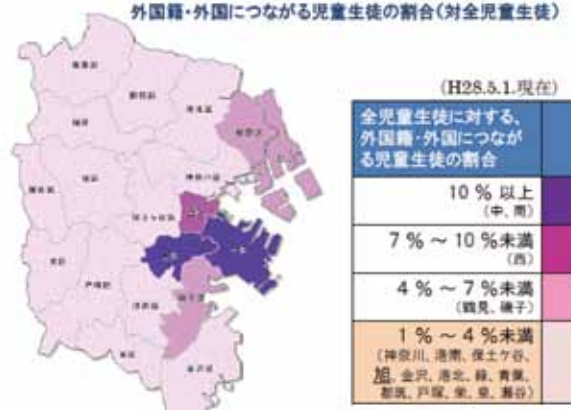
外国籍及び外国につながる児童生徒データ

日本語指導が必要な児童生徒の割合(対外国籍・つながる)



外国籍及び外国につながる児童生徒データ

外国籍・外国につながる児童生徒の割合(対全児童生徒)



次に横浜市が今行っております「日本語指導が必要な児童生徒への支援」についてお話しします。内容は大きく分けて 10 項目ございます。

日本語指導が必要な児童生徒への支援

- 1 国際教室
- 2 横浜市日本語教室
- 3 母語による初期適応・学習支援事業
- 4 学校通訳ボランティア(保護者対象)
- 5 各種ガイドブック等発行(配布・HP)
- 6 外国語補助指導員
- 7 日本語指導者養成講座・日本語指導者養成上級講座
- 8 教育委員会事務局 外国語指導主事助手
- 9 高校入試のための面接練習会
- 10 日本語支援拠点施設

国際教室とは、日本語指導が必要な児童生徒を指導するために、そういうお子さんが多い学校に、教員を配置して特別なクラスを作っております。日本語指導が必要なお子さんが 5 人いると 1 人の先生がついて、取り出し授業などをして指導する形です。20 人を超えますと 2 人目がつくということで、一番多い学校で、日本語指導が必要なお子さんが 1 校に 150 人位いる所で、全国的に一番多いのではないかと思います。

国際教室ですが、日本語を教えるだけではなくて、日本の学校についてもまったく分かりませんので、ロッカーの使い方であったり、いろんな行事であったり、普通のクラスにいても中々持ち物が分からないですとか、小学生ですと普通給食ですが、行事の時はお弁当を持ってこなくてはならないとか、そういったものも国際教室を通して、お子さん達にな

るべく不安のないように支援をするというようなどころです。

今年度から教員の給与の負担が、神奈川県から横浜市に移りました。それに伴いまして、横浜市は日本語指導が必要なお子さんが多いので、基準が緩くなりまして、かなり多く市費で横浜の学校には先生がつくということになりました。そのこともありまして、国際教室は平成28年度は80校だったのが、平成29年度は109校に増えました。これはお子さんが増えたということもありますが、横浜市として力を入れて行こうというので、教員の配置を増やしてもらった結果こういうことになっております。旭区には今宿小、今宿南小学校に国際教室はありますが、ただ5人以下ですと学校には、国際教室はつきませんので、学校の方でもご苦労されているのではないかと考えております。

次に大きな事業として、日本語教室という事業をしております。こちらは日本語の初期指導が必要なお子さんを、日本語の専門家が指導するという事業です。中学生の場合は通級といいまして、市内5つの教室に週2回通います。小学生は別の所に通えないので、講師が学校に伺って週1回日本語指導を半年から一年位指導をしています。

日本語教室の講師ですが、段々増えております。平成29年度は34名ということですが、中々日本語だけで対応していくことは難しいので、この講師には日本語以外にも他の言語が話せるようにということで、34名の内、中国語が話せる方が21名、英語が17名、ということでいろんな言語に対応して、お子さんに安心して日本語を学んでもらうというような事をしております。こちらも利用児童生徒が多くなっております。

他にやっている事業は、お子さんに対する母語による学習支援です。まったく日本語が喋れないで来るお子さんもいらっしゃいます。例えば先生の指示がまったく分からない、友達と何かの拍子で喧嘩になってしまう。何も学校からの連絡が親に伝えられない。というような困った状況が起きますので、ボランティアの方をお願いをして、母語と日本語が出来

る方に、一定程度そのお子さんについていただいて支援をしていただくというものです。これはもともとは初期適応支援ということで、最初に来たお子さんについていたんですけれど、やはり学習の方も見て行かなくてはならない、学習支援にも少し力をいれているといころです。授業をしている中で、先生が黒板に書いていることを教えることは難しいのですけれど、少しでも子どもたちが授業についていけるようにということで、安心して授業に参加できるというようなメリットがあると思います。

このボランティアの紹介ですが、国際交流ラウンジというのがございます。そちらの方に依頼して、派遣をしてもらうところなんです。ただ、横浜市は今、102ヶ国からお子さん達がきておりまして、非常に希少な言語であったり、急増しているのがネパールの方が非常に増えてきています。ネパール語と日本語がきちんと出来る方を確保することが、非常に難しくなっております。そこで、いろんな所で呼び掛けをさせていただいて、お手伝いをしていただけるような方にも登録をしていただけるようお願いしております。

学校通訳ボランティアということで、保護者への対応としまして、個人面談とか、家庭訪問、進路の相談等については親御さんに先生の言っていることを通訳してもらうというんです。実は、お子さんの方は、学校に居ると友達といろいろ話をしたりして、日常会話はかなり早い、半年から10ヶ月位で日常会話には支障が無くなってくるのですけれど、親御さんの方は、お仕事で日本語を使ったりすることが無ければ、全然日本語を覚えないということが起きます。

こういった通訳を使うことで親御さんにもきちんと理解をしていただいて、進路を決めていただくというよなこともしています。実はお子さんの方がいろんなものを日常生活の中でピックアップしていくので、子どもと親が中々話が通じなくなって来ているというような事もおきています。進路に関しても、もう親に相談しても何も分からないから、自分で何とかしようというようなお子さんがいた

り、本当はこの位の歳ですと、親御さんと相談したり、悩みを話したりとかあると思うのですが、どうせ分かってもらえないし、子どもの方は、段々母語が出来なくなってきていることもあって、意思疎通が非常に難しくなっている事も問題の一つかなと思っています。

そういったこともあり、学校によっては多い所ですと、母語の教室を学校毎にやっている所もあるので、週に1回ですとか、ボランティアの人に来ていただいて、少し母語を学んでもらうということもやっています。こちらの通訳ボランティアにつきましては、国際交流協会が一括をして担当しております。

先ほど申し上げたようにすぐに通訳が見つからなかったりする事がありますので、横浜市の方でも学校が対応できるように、ガイドブックを発行させていただいております。

日本語指導が必要な児童生徒への支援

各種ガイドブック等発行(配布・HP)

(横浜市教育委員会HP掲載)

○「ようこそ横浜の学校へ」【H24～】

- I 日本語指導が必要な児童生徒受入れの手引き
 - II 学校通知文・用語対訳集(※7か国語対訳)
 - III 保護者の方へ ～横浜の学校生活～
(※7か国語対訳)
- ※ 英語、中国語、スペイン語、タガログ語、
韓国・朝鮮語、ポルトガル語、ベトナム語

学校がそういったお子さんを受け入れる時に、どんなことを準備したらよいか、こういう事に気を付けてくださいというような事が、1つ目の受け入れの手引きです。2つ目が、学校通知文ですとか用語対訳集、これも7か国語しか出来ていないませんが、こちらの言語につきましては、様々な学校通知文の基本的なものについて訳したものを、HPのほうにあげさせていただいております。用語対訳集というのは、学校によく使うような言葉についてお示しをしたものになります。それから保護者の方へということで、「横浜の学校生活はこういうものですよ」「こんな授業があります」「引越をする際は必ず学校に伝えてくださいね」ですとか、「進路についてはこういうものがあります」というものを書いた、横浜の

学校生活というものもあります。

次に外国語補助指導員というのがあります。これはあまり配置は出来ていないのですが、今8名の方に、日本語指導が必要なお子さんが多い学校から順番に、外国語と日本語が出来る方を配置しております。実は中学校が1校ですが、中学校で生徒指導が出来なくなっている所があって、非常に苦労している中で、両方の言葉が分かり、文化の事も分かっている補助指導員がいると非常に役立つということで、学校からは喜ばれております。その他外国語指導主事助手として、教育委員会の私の部署に外国人スタッフがおりまして、4ヶ国語の対応は私どもでもできるという事になっております。

次に高校入試のための面接練習会です。外国の方ですと日本の受験のシステムのなかでも、面接が非常に重視される所もあります。何とか面接を頑張れば入れる私立の学校があったりしますので、面接の練習を12月と1月にさせていただいております。こちらは私も一緒に行きます。すごく一生懸命で、面接シートに書いてあることを、日本語が喋れないお子さんも丸暗記をして頑張ってくるんですけど、学校の先生が書いてくれるので、非常に言葉が難しい。「貴校の教育方針」という言葉が出てくると、本人は全く分かっていなかったりします。そういった処もこの面接練習会で、自分が言える内容をどうやって伝えるとかいうような事を指導しながら、何回もやっているとかかなり上手になって、最初にきた子と同じとは思えないような話をできる子になって、私達も非常に嬉しい思いをしております。

ほかに、直接子どもたちへの支援ではないのですが、日本語指導者養成講座があります。先ほど申しました国際教室に教員が配置をされるのですが、普通に学校の先生が配置をされるので、日本語の指導を専門にしている方ではありません。そういう事をやった事が無い人が、あなたは来年国際教室の担当ですからよろしくお願ひしますと言われるので、子どもたちにどうやって教えたらいのか、どんな教材を使えばいいか、というような事

を伝える為に、日本語指導者養成講座を行っております。

国際教室は毎年5割位が初めて担当する方になりますので、だいたい50人から60人位は新人さんを相手に講座を開いております。

次に日本語教育支援施設「ひまわり」ですが、主に5つの機能を持っております。

- 1) 学校ガイダンス
- 2) プレクラス
- 3) さくら教室
- 4) 日本語教室
- 5) 情報収集・発信

先ず学校ガイダンスですが、こちらに施設が開設したのが今年の8月末ということで、半年しか経っていないのですが、日本の学校に転入してくるお子さんと親御さんに対して、学校についての説明をさせていただいております。学校に入学する時に、いろいろな書類を書かなくてはならない、または中国の方ですと自分の名前をどうやって呼んでもらうかを決めて行かなくてはならないという事もあります。そういった処の支援をさせていただいております。

プレクラスとは、日本に来たばかりのお子さんに週3回、4週間通っていただくクラスになります。学校と連携しながらすすめております。これまで全部で100人位のお子さんが利用しております。その他、さくら教室、関係機関との連携ですが、横浜市国際交流協会、国際交流ラウンジの連携をしております。

■質疑応答

青木会員／日本に来た子どもたちの勉強を一回見せていただいたのですが、週3日で一ヶ月コースですよね。鶴ヶ峰のみなくでやっている団体に協力しているのですが、そこの先生達の話によりますと、一ヶ月ではとてもではないけどほとんど理解していない。それをもっと伸ばす計画はあるのですか。

甘粕様／いまご質問があったように、一ヶ月でどこまで出来るかということはあると思います。特に国際教室がない学校は、そこに一ヶ月間終わって、学校に入ると誰がサポートしますか。どの先生の手が空いていますか。という事になってしまいます。そこで、使える

支援としては、日本語教室なんですけど、こちら週に一回ということなので、これで十分なのかどうかというのは、始めたばかりですので、学校との話し合いをしながら考えて行きたいと思っています。ただ国際教室がある学校については、そちらの4週間が終わっても、国際教室の方で取り出しをして支援をしていくということですので、今のところは国際教室の先生方からは、一ヶ月で普通に学校に来ていたら出来ないところまではやってもらっている、そのあとの指導は国際教室としてはやりやすくなっているというお話をいただいております。

青木会員／国際教室には子どもが5名だと先生がつく、例えば3名だと付かない。その学校というのは大変だと思うのですが。

甘粕様／その場合には、日本語教室を使いながら、母国のボランティアに来て頂くというのが今の状況です。学校の中で支援をする時間のある先生を見つけるのが難しいと思うのですが、子ども達にどういった教材を使ったらいいのかですとか、こういった宿題を出してみてもいいのでしょうか。といったものは「ひまわり」の方から発信をしていければと思っていますところでは。

兵藤会員／両親は何を求めて日本に来ている方が多いのでしょうか。

甘粕様／一番多いのはお仕事だと思います。ただ国によって少し違うのですが、例えばお母さんが外国の方で、お父さんが日本人で、元々お母さんの国に育っていたのですが、お父さんといっしょに住むために途中から日本に来る方もいらっしゃる、そこは家族がいっしょに住む為になりますし、特に中国の方は、ほとんどお仕事で来られている。

また、少し難しいのは家族丸ごと初めに来てしまうと、誰も日本語が分からない、生活も分からない、これから暮らしていけるかも分からないということで、ご両親だけ先に来られて、子どもはおじいちゃんおばあちゃんに預けて、日本での生活がうまく行くようであれば呼び寄せるといったケースも非常に増えております。そうすると、親と子どもが全然会っていなかった、断絶しているよう

にご家庭もあって、そこも課題かなと思って
おります。

兵藤会員／ご両親というのは、永住を希望して
来るのか、それとも短期で労働者として来る
人達でしょうか。

甘粕様／最近傾向としては、永住化の傾向が
多くなってきていると思います。いままでは、
出稼ぎではないですけど、そういった方も多
かったのですが、最近、今申し上げたよう
に、後から家族を呼び寄せますという方も
増えていますので、永住して日本に住もう
と思っている方が増えてると思います。

兵藤会員／日本はそれを歓迎しているのだ
でしょうか。日本の労働力が少なくなっている
現状に対し、そういう方々を求めている風潮
はあるのでしょうか。

甘粕様／まず国のことなので何とも言えない
ですけど、例えば日本で問題になっている
介護の分野などについては、新しく介護福
祉士の資格をとってどこかの会社で、介護福
祉士として常勤で勤務することが出来ますと
就労ビザがおります。そういう制度が新しく
出来ました。ですからそういった面で労働力
が足りないといった所については、様々な制
度がこれからも出来てくるのかなと、それ
を使って来られる方も増えるのではないかと
思っています。

兵藤会員／これはますます増えるという傾向
であると理解してよろしいのでしょうか。

甘粕様／はい。

後藤会員／私の娘がついこの間まで、上飯
田中学校の学校事務をしていました。お子
さんたちは学校に通ってくるので、少しづ
つ日本語が分かってくるのですが、でもど
うしても親御さんと話をしなくてはならな
い時、まるっきり分からないそうなんです。
そこで教育委員会から通訳の方が来て頂
いてやるのですが、親御さん達に対しての
サポートは現在何かあるのでしょうか。

甘粕様／横浜市として対応しているという
のはないのですが、先ほど申し上げまし
た国際交流ラウンジで、大人の方向けの
日本語教室をやってみたりということがあ
ります。そういった所で細々やるというこ
とになって

しまうと思います。また、ボランティアの方
が行っている日本語教室のリストなどもあ
りますので、そういったものをご紹介いた
だく方法もあると思います。

例えばお仕事をされていて、お仕事は全
く日本語を使わなくていいという方にな
りますと、教室に通える時間はないけれ
ど、日本語を使う時間もない。なので、
中々覚えていただくのは難しくなると
思います。普段の生活には全く支障が
ないという方も多いので、そこは難
しいところだと思います。

後藤会員／例えばいちょう団地では、
そういった方々同志のコミュニケーション
が出来てしまっているので、わざわざ
日本語を覚える必要はないんじゃない
という方が沢山いるそうです。

太田会員／今日の先生の後援の目的なん
ですけど、先生の活動を支援していき
たいということですね。そう考えますと
宋さんがクラブに入られて、外国の子
どもたちへの支援と、宋さん自身の体
験から考えもあるようなので、ぜひ
宋さんのコメントをいただきたい。私
達ロータリー、旭クラブに何が出来
るのかということ、今日勉強させてい
ただいたので、これを機会に国際奉仕
委員会として話を進めたいと思いま
す。

甘粕様／只今言っていたように、行政
として支援はしておりますが、やはり
限界がございます。いろいろな形で
連携を深めて、少しでも多くの機
会を子ども達に与えていただい
て、日本語や学習を学ぶという場
が増えていったらいいなと思いま
す。

宋会員／今母国語を持っているボラン
ティアが足りないことが一番の問題
です。お金の協力以外にロータリー
として何が出来るか考えてほしい
のです。例えば、ロータリーの中
に米山奨学金制度があります。奨
学生には大金が支給されてお
ります。米山奨学生の中にネ
パールの奨学生とか、いろん
な国の奨学生にボランティアを
やってもらってもいいのでは
ないでしょうか。

■次週の卓話

2/21 (水)一般卓話 兵藤 哲夫会員

週報担当 本山 雄三